

営農技術情報

一畑作(大豆) 8月号一

平成29年 8月 2 日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 Tel.01654-2-4524
JA道北なよろ Tel.01655-3-2521

1 病害虫防除

(1) マメシクイガ (大豆)

「フェロモントラップ」によるマメシクイガ成虫の捕獲頭数は下表のとおりです。
本年は、7月末より成虫の飛来が確認されています。

表1 マメシクイガ成虫の捕獲頭数

設置場所	本年 7月31日	昨年 8月1日
風連豊里	2	0
中央	7	1
西風連	2	9
智恵文	0	4

マメシクイガの産卵は、大豆の莢長が2～3cmとなる頃(莢伸長始)より始まります。本年は、5月中旬までには種したほ場では、既に莢伸長期に入っているため、下記を目安に防除を開始して下さい。また、1回目の防除はなるべく残効の長い薬剤を使用するようにして下さい。

マメシクイガの防除

★成虫および莢伸長始の両方が認められてから6日後を目処に防除を開始する。

【1回目】

- ・防除時期：成虫および莢伸長始の両方が認められてから6日後
- ・散布薬剤：合成ピレスロイド剤もしくはジアミド剤

【2回目】

- ・防除時期：1回目防除の7～10日後。
- ・散布薬剤：有機リン剤

※株元や莢に薬剤が十分にかかるように散布する。

【マメシクイガの防除薬剤例】 (登録内容は平成29年8月1日時点)

散布時期	薬剤名	系統名	使用倍率	使用時期	使用回数	残効
1回目	ゲットアウトWDG	合ピレ	3,000倍	7日前	3回以内	長
	トレボン乳剤	合ピレ	1,000倍	14日前	2回以内	中
	プレバソフフロアブル5	ジアミド	4,000倍	7日前	2回以内	中長
2回目	トクチオン乳剤	有機リン	1,000倍	30日前	3回以内	中
	エルサン乳剤	有機リン	1,000倍	7日前	2回以内	短
	サイアノックス乳剤	有機リン	1,000倍	7日前	2回以内	短

※「ゲットアウトWDG」はアブラムシ類にも登録があります。

※「トレボン乳剤」、「エルサン乳剤」はアブラムシ類、カメムシ類にも登録があります。

※「トクチオン乳剤」はアブラムシ類、ハダニ類にも登録があります。

(2) ツメクサガ、ハダニ類

ツメクサガによる食害が散見されています。

ハダニ類は高温・乾燥条件で多発しやすくなります。ほ場外周部から発生が見られることが多いですので、発生状況を確認した上で防除を検討しましょう。

【ツメクサガ、ハダニ類の防除薬剤例】（登録内容は平成29年8月1日時点）

害虫	薬剤名	系統名	使用倍率	使用時期	回数
ツメクサガ	トクチオン乳剤	有機リン	1,000倍	30日前	3回以内
	エルサン乳剤	有機リン	1,000倍	7日前	2回以内
ハダニ類	ダニトロンフロアブル	ピラザール	1,000～2,000倍	7日前	1回

(3) 菌核病

開花後7～10日間隔で2～3回防除しましょう。

【防除薬剤例】（登録内容は平成29年8月1日時点）

薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数
スミレックス水和剤	1,000～2,000倍	21日前	4回以内
カンタスドライフロアブル	1,500倍	7日前	3回以内

(4) 茎疫病

6月以降、降水量が多い状況ですので発生しやすい状況にあります。発生が見られる場合は、防除を実施しましょう。

【防除薬剤例】（登録内容は平成29年8月1日時点）

薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数
プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	21日前	2回以内
リドミルゴールドMZ	500倍	45日前	3回以内

※「プロポーズ顆粒水和剤」、「リドミルゴールドMZ」はべと病にも登録があります。

農薬安全使用

- ・必ずラベルを読み、使用量・時期・回数を確認し、適正に使用しましょう。
- ・周辺作物への農薬飛散には十分注意しましょう。

農作業中の熱中症に注意！

暑熱環境下での農作業は、熱中症（熱射病、熱けいれん、熱まひ等）を発症しやすいので以下の事項に注意してください。

- ・日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等、作業時間を工夫しましょう。
- ・水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給しましょう。特に気温が著しく高くなりやすい施設内での作業では、十分に注意しましょう。
- ・帽子を着用するとともに、汗を発散しやすい服装をしましょう。